令和3年度　西東京市公民館　事業評価表

【目的】 西東京市公民館事業評価は、公民館が持つ機能の充実を目指し、事業の改善を図ることを目的とする。

※ 評価欄 A～D

A ・・十分達成している
B ・・概ね達成している
C ・・今後の努力が必要
D ・・達成できていない

令和3～5年度　事業計画		
【基本目標】 共生社会の実現に向けて、地域の中へ踏み出す公民館 **【基本方針】** ・開かれた公民館～あらゆる市民に向けて ・問いかける公民館～地域・社会に向き合う ・地域とともに～地域の中で、一緒に ・地域の中につながりを～ともに生きる地域を	■開かれた公民館～あらゆる市民に向けて ・身近に感じてもらえるように、気軽に参加でき、市民の関心に沿うような多様で幅広い事業を行います。 ・市民の潜在的ニーズの把握に努め、現役世代や若い世代など、公民館の利用が少ない層に向けた事業に取り組みます。 ・独居の高齢者、異なる文化背景を持つ人、障がいのある人、困難を抱えている人など、社会的制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人を対象とした事業に取り組みます。 ・市民が必要とする情報を手にすることができるように、また、公民館が届けたい情報を届けたい人に届けることができるように、市ホームページやSNSの活用をすすめ、広報活動の充実に努めます。 ■・問いかける公民館～地域・社会に向き合う ・市民が抱く疑問や漠然とした不安、直面する問題等を学習課題化し、学びの場を提案します。 ・市民が主体的に学びを発展させていくことができるよう、継続的に学びの場を用意します。 ・市民が学びを実践につなげていく営みを支援します。 ■・地域とともに～地域の中で、一緒に ・公民館の中にとどまらず、他の公共施設や公共的空間など、地域の中で事業を実施します。 　・まちを歩き、地域を知る事業を実施します。 　・個人や団体が運営する地域の居場所で、一緒に事業を行います。 ・市民、団体、機関等と連携・協働して、事業に取り組みます。 　・受講者や公民館で活動する団体が、公民館での学びや活動の成果を地域へと広げていくことを支援します。 　・他課や関係機関と課題・目的を共有し、それぞれの独自性をいかして役割分担しながら、連携して事業に取り組みます。 ・地域の課題と向き合い、学習課題化して、学びの場を提案します。 ・ロビーを、公民館施設内にとどまらない、地域へと広がる、まちの中の出会いと交流の場として活かしていきます。 ■地域の中につながりを～ともに生きる地域を ・地域の中に、学びを通して人と人が出会い、交流し、関係を育む機会を生み出します。 　・日々の暮らしの中では知り合う機会が少ない人と出会い、交流する機会を提供します。 ・地域で活動する多様な団体・機関が関係を形成していくことを支援します。	①「西東京市公民館の事業評価のあり方について」に対する答申（平成23年4月27日）に基づき、公民館事業全体の総合的な評価を行う。 ②数値のみでは表せない視点を盛り込んだ実績も積極的に評価に取り入れる。 ③評価内容は柔軟な評価を目標にして、定期的に見直しを行う。（見直しは検討会議を開催する ④事業評価の内容を公開する。 ⑤評価結果は今後の公民館事業計画及び運営に反映させる。 ⑥持続可能な社会づくりの観点で評価する。 ⑦市民本位の公民館経営における事業展開を適切に評価する。

	項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	実績	公民館（1次）評価		公民館運営審議会（2次）評価	
			開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを				評価	評価及び課題　[◇・・評価　◆・・課題]	評価	評価及び課題　[◇・・評価　◆・・課題]
（1）	学級・講座	個別事業	・多様で幅広い事業 ・公民館の利用が少ない層に向けた事業 ・社会的制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人を対象とした事業	・市民が抱える問題等を学習課題化 ・継続的な学びの提供 ・学びを実践につなげていく営みの支援	・地域課題の学習課題化 ・地域の中で事業実施 ・市民、団体、機関との連携・協働 ・ロビーの活用	・人と人がつながる機会の提供 ・団体・機関の関係形成を支援	**【だれもが学べる学習機会の提供】** 社会的に制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人への配慮も含め、幅広い対象に向けて、生涯にわたる学習の機会を提供することができたか	・対象者別事業の実施（子ども対象・親子対象・青少年対象・高齢者対象・障がい者対象・外国人対象など） ・社会的に制約を受けやすい人、社会的の孤立しがちな人を対象とした事業の実施	全事業数　73件 一般対象 14件／多世代交流 3件 【生涯にわたる学習機会の提供】 子ども対象 4件／青少年対象 4件／親子対象 11件／成人対象 30件／勤労者対象 1件／高齢者対象 2件／子育て中の保護者対象 7件／子育て中の女性対象 4件／女性対象 1件／男性対象 0件 【社会的に制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人対象】 障がい者対象 4件／外国人対象 1件 【学習支援保育付き事業】 8件 ※重複あり	A	◇・子どもから高齢者までライフステージに応じた課題を取り上げた事業を実施した。 ・新たに、中学生・高校生を対象としたダンス講座、小学校5年生から25歳までを対象とした人権講座、30～40歳代の現役世代を主たる対象としたオンライン開催の教養講座など、公民館の利用が少ない層に向けた事業に取り組んだ。この3事業は、公民館主催事業に初めて参加する人の割合が60%を超えていた。 ・谷戸公民館で継続的に取り組んでいる障がいのある人、ない人が一緒に活動する「インクルーシブな社会をめざす講座」から自主サークルが発足した。 ◆公民館の利用が少ない30～40歳代の現役世代の参加が得られるような事業に取り組む。	A	◇・「だれもが学べる」ことを目標にかかげる中で、特に社会的に制約を受けやすい人、社会的に孤立しがちな人を対象とする事業が充実してきていることがわかり、評価できる。 ・公民館運営審議会に提示される事業計画書、事業報告書の個票の内容が順次整理されており、事業評価が次年度の運営に生かされていることがわかる。 ◆「一般対象」とあるが、その対象者も多様化している。特に公民館に足を運ぶことの少ない、現役世代の人々や男性が興味をもって参加できる事業を工夫していく必要がある。またさらに深い学びに向けてこれからも講座の充実をはかっていく必要がある。
							【利用者をひろげる取り組み】 公民館に足を運んだことがない人、公民館主催事業に参加したことがない人に向けての事業に取り組んだか	・参加しやすい事業の実施 ・公民館主催事業に初めて参加した人の割合	全事業数　73件 ・参加しやすい事業として実施した事業　21件 ・公民館の利用が少ない層に向けた事業　4件 ・参加しやすくする条件整備 　保育付き講座　8件 　オンライン開催　4件 ・公民館主催事業に初めて参加した人が50%を超える事業 　20件（アンケート調査を行った事業 60件、33.3%） 　＜内訳＞子ども対象3件、青少年対象 3件、親子対象 4件、保育付き講座 5件、オンライン開催 3件、実技 1件　その他 1件 ※重複あり	A	◇・従来から取り組んでいる比較的参加しやすい催しや教養講座、趣味講座に加え、公民館の利用が少ない青少年や30歳～40歳代の現役世代対象の講座に取り組んだ。 ・参加しやすくする条件整備として、学習支援保育に加え、オンライン開催の講座を実施した。また、初めて保育付きの一般講座を1件実施した。 ・初めて公民館主催事業に参加する人の割合が50%を超える事業が、アンケート調査を実施した事業の3割強を占めた。令和2年度も多かった子ども・親子対象、保育付き講座に加えて、新しい取り組みの青少年対象講座、オンライン開催講座がこれに該当する。 ◆公民館を利用したことがない人の参加を促すために、市民の多様な学習ニーズに応えられるよう、今まで取り上げてこなかった課題等に取り組む。	A	◇コロナの影響で様々な事業が制約を受けたが、その中でオンラインによる講座運営が促進されたのは評価できる。また、保育付き事業も対象をいろいろ工夫して展開できている。誰でも学びに参加できるようさらなる工夫を望みたい。 ◆市民の学習のニーズの中には、気楽に参加できる講座の開催もあるように思われる。行ってみたいと思わせる工夫も必要ではないか。またオンラインで参加した学習者を、実際の公民館へつなげていく必要がある。
							【学びの課題】 市民の多様な学習要求に応える学習の機会を提供することができたか	取り上げた課題（子育て、環境、防災など）	全事業数　45件（子ども対象・青少年対象・親子対象事業、鑑賞等を目的とした成人対象事業、地域交流事業、視聴覚事業を除く） 子育て 6件／家庭教育 4件／健康 4件／男女平等参画 2件／女性の生き方　1件／高齢者の課題 3件／高齢社会 0件／防災 6件／インクルーシブ 2件／労働 0件／貧困問題 0件／人権 3件／平和 3件／環境 3件／国際理解 1件／多文化共生 2件／地域づくり 6件／メディアリテラシー 0件／実技 8件／ その他 8件 ※重複あり	A	◇継続的に取り組んでいる地域課題や社会的課題を中心に多様な課題に取り組んだ。特に、令和2年度には取り組めなかった課題「男女平等参画」を取り上げた講座を2件実施した。 ◆継続的に取り組んでいる課題に引き続き取り組むとともに、市民の潜在的な学習ニーズの把握に努める。	A	◇子育て、家庭教育、防災の講座は各館で多角的に取り組めている。市民の学習ニーズの中には、貧困問題、高齢社会、メディアリテラシーもあるはずで、今後取り組んでいく必要があるのではないか。 ◆市民の多様な学習要求について、利用者懇談会や公民館運営審議会など、直接市民の声をきける場を活用してほしい。そして利用者が抱える課題を整理して、今後の学びにつなげてほしい。

						【地域課題等の取り上げ】 地域課題や生活課題、社会的課題等を取り上げ、解決に向けた学習の機会を提供することができたか	・地域課題の取り上げ ・社会的課題の取り上げ ・総合計画の反映 ・教育計画の反映	全事業数　73件 ・地域課題の取り上げ　36件（49.3%） ・社会的課題の取り上げ　8件（11%） ・総合計画の反映　33件（45.2%） ・教育計画の反映　57件（78.1%）	A	◇継続事業を中心に、地域課題や社会的課題を取り上げた講座を実施した。教育計画を反映した事業は8割近くあり、総合計画や教育計画等の上位計画をふまえた事業の企画、実施を行った。 ◆地域課題を把握する方法について検討する。	A	◇公民館運営審議会に提示される資料や事業計画、事業報告を見ると、総合計画や教育計画の指針が反映された公民館運営や講座運営ができていると評価できる。 ◆地域課題が何であるかを明確にするためにも、講座での市民交流や、受付などでの日頃の市民との対話を大切にして、把握に努めることが大切ではないか。
						【協働・連携、協力の推進】 市民・団体・機関等と連携・協働した事業を企画・実施することができたか	・他課との協働・連携 ・他教育施設との協働・連携 ・他公共機関との協働・連携 ・地域団体等との協働・連携 ・公民館利用団体との協働・連携 ・地域の人材との協働・連携	全事業数　73件 ・他課との協働・連携　2件 ・他公共機関との協働・連携　3件 ・市民団体、地域団体等との協働・連携　12件 ・地域人材との協働・連携　5件 ・社会教育課、図書館との連携事業「まちなか先生」を実施 4種類の講座を小学校8校で合計9回実施 参加人数：22クラス668人	A	◇・継続的に取り組んでいる事業の中には、市民団体や地域団体と共催で実施するようになったものが数件ある。協働・連携が進んだと考える。 ・社会教育課、図書館と連携して、専門職員や地域人材、地域団体等を講師に市立小・中学校で授業を行う「まちなか先生」を実施。地域団体との協働・連携、学校との連携を進める機会となった。 ◆引き続き、市民、団体、関係機関と協働・連携した事業に取り組む。	A	◇実績をみると、市民団体との連携は継続してよい事業ができている。また従来からの課題であった、学校との連携、協力については、「まちなか先生」の事業展開で、公民館や地域人材である市民が学校現場に入ることができ、大いに評価できる。 ◆「まちなか先生」の事業は評価したいが、職員の負担も増えているのでは、と心配もしている。中学校との連携も含め、今後もよりよい形を模索していく必要を感じる。また、児童館や高齢者施設との連携もコロナの状況をみながら進めてほしい。
						【プロセス重視の運営】 プロセス重視の事業企画・運営に努めたか 市民の主体性を尊重し、自治能力の向上につながる学習の支援ができたか	・準備会 ・実行委員会 ・参加型学習（グループワーク、ワークショップ等）の工夫 ・相互学習 ・学習成果の発表	全事業数　73件 ・準備会　10件（13.7%） ・実行委員会　5件（6.8%） ・参加型学習を取り入れた講座の実施数　24件（32.9%） ・相互学習　5件（6.8%） ・学習成果の発表　10件（13.7%） 学習目的の事業　39件 ・参加型学習を取り入れた講座の実施数　20件（51.3%） ・相互学習　5件（12.8%） ・学習成果の発表　3件（7.7%）	A	◇・令和2年度に引き続き、継続事業については準備会を行い、企画段階からの市民参加を進めた。 ・参加型学習を取り入れた講座は全体の34.2%だが、学習を目的とした事業に限定すると、全体の51.3%と半数を超えている。相互学習を取り入れた事業は学習を目的とした事業の12.8%であり、学習者主体の講座運営に努めた。 ◆企画や講座運営への市民参加を進める。	A	◇プロセスを重視した学びこそ、社会教育の基本である。西東京市の公民館はこの点を重視した形で講座運営がなされていて、公民館での学びを実感できるスタイルを保持していることは評価できる。 ◆準備会や実行委員会などへの参加が市民同士の結びつきにもなるので、この学習形態も継続していってほしい。
						【学習者の評価】 学習者は、どのような評価をしているか	・アンケートによるプログラム・講師・運営に対する学習者の満足度	全事業数　73件 （A：満足　B：ほぼ満足 C:やや不満　D：不満） AとBの合計が80%を超える事業数 プログラムの満足度　62件（調査対象62件） 講師の満足度　59件（調査対象59件） 運営の満足度　61件（調査対象61件） ※アンケート実施事業数　62件 アンケート回収率不明　5件 回収率80%以下　7件	A	◇受講者へのアンケート結果や感想から、事業・講座に対する受講者の満足度は高いと判断できる。 ◆満足度調査は他の評価でも使用するため、引き続き実施するが、アンケートの他の項目や自由記載欄、感想等から、受講者の評価を把握するよう努める。	A	◇事業報告書を読むと、アンケートの自由記載欄や感想を丁寧に拾っていることがわかる。報告書に「担当者の考察・課題」欄が設けられたが、この内容を次の事業にぜひ生かしてほしい。 ◆アンケートも客観的素材として重要だが、講座の中や、終了時などの参加者の雑談などにも注目して講座運営に生かしていきたい。

	項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	実績	公民館（1次）評価		公民館運営審議会（2次）評価	
			開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを				評価	評価及び課題　［◇・・評価　◆・・課題］	評価	評価及び課題　［◇・・評価　◆・・課題］
（2）	施設管理	環境整備					**【学習環境の整備】** 社会教育施設として、市民の主体的な学習活動を支援する環境整備に努めたか	・団体連絡箱の適切な提供 ・印刷機等の提供 ・ロビーの環境整備	・団体連絡箱利用団体数（6館合計）　305団体 ・印刷機利用件数（6館合計）　907件	A	◇・令和2年度に引き続き、手指消毒剤の設置、備品消毒剤の提供、非接触型検温器の設置等、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意した環境整備を行った。 ・田無公民館が耐震補強等改修工事により休館するため、代替施設として、田無総合福祉センター3階に、田無公民館（仮）活動室を開設、提供した。 ◆新型コロナウイルス感染状況に応じて、ロビー利用にかかる規制の緩和を検討する。	A	◇公民館運営審議会の実施においても万全のコロナ対策が実施され、各方面に配慮したコロナウイルス対策がされていた。また田無公民館休館中は代替施設を適切に設置し、「田無公民館つうしん」を出して情報提供するなど、改修工事にあたってのプロジェクトが素晴らしかった。 ◆ロビー利用の規制緩和は市民の願いであり、全館のロビーや学習室にWi-Fiの設備を整えたい。
		防災					**【防災】** 防災・減災対策に取り組んだか	・防災訓練の実施 ・防災対応マニュアルの整備	防災訓練の実施 ・柳沢・芝久保・谷戸・ひばりが丘で保育引き取り訓練を実施 ・谷戸　利用者対象避難経路確認訓練　1回 ・ひばりが丘　職員・警備員対象訓練　2回 ・保谷駅前　ビル管理会社主催避難訓練　2回	B	◇新型コロナウイルス感染拡大により、予定していた避難訓練を実施できなかった館もあり、防災訓練を実施した館が3館となっている。 ◆新型コロナウイルス感染状況に応じて、各館で、職員・警備員や利用者を対象とした防災訓練等の実施を検討する。	B	◇・保育付き講座が開催されている全館で、保育引き取り訓練が実施されており評価できる。 ・保谷駅前公民館はビルの5階にあり、他の公民館と構造が違うので、引き続きビル管理会社と連携した訓練を行うと共に、その特性を考慮した防犯防災訓練の実施を行いたい。 ◆図書館との併設公民館が多いので、図書館との合同の防災訓練も行いたい。また実際に公民館を利用する市民に周知するためにも、利用者懇談会の場も活用したい。

	項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	実績	公民館（1次）評価		公民館運営審議会（2次）評価	
			開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを				評価	評価及び課題　［◇・・評価　◆・・課題］	評価	評価及び課題　［◇・・評価　◆・・課題］
（3）	窓口業務	学習相談					**【学習情報整理】** 学習情報の収集・整理・共有化を行い、市民の学習に繋がるような情報提供を行ったか	・団体一覧の更新（年1回） ・団体の館内掲示物・配布物の整理・保管 ・公民館利用団体紹介冊子の作成	・団体の定期的な活動情報の更新（年1回）　未実施 ・サークル紹介冊子の作成・配布 2館で実施（芝久保、ひばりが丘） ・閲覧用サークル紹介ファイル 2館で設置（芝久保、保谷駅前）	B	◇・引き続き、公民館登録団体一覧やサークル紹介紙、ポスターの掲示、チラシの配架等により、団体及び学習情報の整理、提供を行った。 ・耐震補強等改修工事のため1年間、休館した田無公民館は、他施設で活動する利用団体に対する情報提供も兼ねて、原則として毎月1回「田無公民館つうしん」を発行し、公民館をはじめ市内公共施設に配架した。 ◆公民館利用団体の活動紹介ファイルを作成し、全館に設置する。	B	◇「田無公民館つうしん」は内容が充実していて評価できる。このような通信を他の公民館でも随時発行してみても面白いのではないか。 ◆公民館利用団体の活動を紹介する全館の統一したファイルの作成を求めたい。どの公民館の窓口でも、市内で活動する団体の状況、アクセスの道筋がわかるようになると学習情報が的確に入るようになると思われる。

							【窓口対応における学習支援】 市民の学習の質を高め、継続的なものにすることができるように学習相談を行ったか	・公民館登録団体に関する情報提供 ・団体からの各種相談に対する対応	・書面による公民館登録団体の紹介　133件	A	◇・引き続き、窓口及び電話で、市民の求めに応じて、サークル紹介冊子も活用しながら、団体情報の提供を中心とした学習相談を行った。 ・主催講座から発足した自主グループ等の相談にも応じ、支援した。 ・田無公民館再開に向けて、令和4年1月に利用団体向けの説明会を行った。 ◆・コロナ禍において、活動の自粛や会員の退会、部屋の利用可能人数制限による会場確保の難しさ等によって、活動が停滞している団体や存続の危機にある団体が多い状況が続いている。団体活動の継続を支援する取り組みや、団体が相談しやすい関係づくりが課題である。 ・学習相談の記録の作成を検討する。	B	◇実績に表記されているのは、記録された件数のみだが、日常的に学習情報は提供されているようで、数字に出ている以上に日頃から市民の相談に応じていることは高く評価できる。 ◆・上記の「団体紹介ファイル」が設置されるようになれば、そのコーナーに掲示板など設置してはどうか。団体間の情報交換や、市民の声を気軽に書ける場所の提供を提案したい。 ・講座からサークルが生まれるように、学習相談をきっかけに生まれるサークルがあってもよいかもしれない。

	項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	実績	公民館（1次）評価		公民館運営審議会（2次）評価	
			開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを				評価	評価及び課題　[◇・・評価　◆・・課題]	評価	評価及び課題　[◇・・評価　◆・・課題]
（4）	広報	広報	・広報活動の充実				**【公民館だより】** 公民館だよりを通して、市民に公民館や地域に関する情報を発信したか	・掲載記事の内容	【特集記事】2回 【公民館関係】 年間事業計画案内　1回 主催事業報告　7件 田無公民館耐震補強等改修工事関係　3回 公運審活動報告　1回 【連載記事】 まちあるき　3回 ミニ紙面講座　6回	A	◇令和2年度から2面10回・4面2回発行と紙面が縮減したが、QRコードの活用や主催事業募集記事の量の適正化等により、公民館に関する広報だけでなく、市民が地域を知ることができる連載記事や連続紙面講座等を掲載した。 ◆限られた紙面を有効に活用しつつ、公民館の広報だけでなく、地域に関する情報や市民の交流につながる紙面づくりに務める。	A	◇2面となった中でも、さまざまな情報が載せられている。特に4面発行時は読みごたえのある記事が載る。公民館だよりの全戸配布と共に内容についても評価できる。引き続き市民スタッフを活かして市民に多くの情報提供のできる紙面を期待したい。 ◆現在QRコードが掲載され、紙面で得られる以上の情報提供が可能となっているが、さらに利用者を増やすためにも、講座の案内の充実、申し込みフォーマットの検討など進めてほしい。
							【幅広い広報】 市ホームページやSNS等の公民館だより以外の媒体を活用した広報活動に努めたか	・市ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの活用 ・SNSの活用	・市ホームページ上に公開した実施事業の動画　3件 ・市ツイッターを利用した事業案内 ・公民館、図書館をはじめ市内公共施設におけるポスターの掲示及びチラシの配架 ・市内に設置されている掲示板でのポスター掲示	A	◇昨年度から始まった市公式SNS（ツイッター、ライン、フェイスブック）への一斉投稿のシステムを活用して昨年度よりも多く情報発信を行った。 ◆市内掲示板、アスタビジョン、FM西東京やプレスリリース等も含めて、まだ十分に市内の広報手段を活用できていない部分があるため、使い方も含めて職員が理解を深め、広報意識を高めていく。	B	◇講座の広報については、いろいろな媒体を使い充実してきている。実施事業の情報更新をしていくなど、きめ細かい対応にも心を配りたい。 ◆現在は市のホームページで事業内容を確認できるが、そこからさらに申し込みなどできるような利便性も視野に入れていきたい。動画発信も含めて、SNSの各媒体の特色を生かして、市民にさらに細かい内容などを情報発信できるように、また利用者自らも宣伝するなど多方面から広報できるように、検討していきたい。

	項目	評価区分	基本方針				評価内容	実績指標	実績	公民館（1次）評価		公民館運営審議会（2次）評価	
			開かれた公民館	問いかける公民館	地域とともに	地域の中につながりを				評価	評価及び課題　[◇・・評価　◆・・課題]	評価	評価及び課題　[◇・・評価　◆・・課題]
（5）	長期的視点での人づくり	単年学習成果					**【学習の継続と成果】** 事業参加者の学習活動の総括・学習成果の発表・学習の継続を支援したか	・学びの振り返りの会の実施 ・記録誌、記念誌の発行 ・学習成果の発表 ・主催講座からサークル化した団体数	・振り返りの会の実施　12件 ・公民館保育室活動の記録誌発行　4冊（各館1冊） ・主催講座の記録誌発行　8冊 ・まつり記念誌発行　3館 ・サークルの発足　7団体 ・市ホームページにおける学習成果等の発表　3件	A	◇・仲間づくりを課題とし講座終了後も長期にわたって交流の場を提供する保育付き講座以外の4講座から自主サークルが発足。職員の適切な支援の結果と考えられる。 ・振り返りの会を実施した講座のうち4講座については次年度の準備会に発展。企画段階からの市民参加が広がりつつあると考える。 ◆引き続き、自主サークル化、記録誌の作成、発表、振り返りの会など、多様な方法により、参加者自身による学習活動の総括を支援する。	A	◇コロナ禍という社会情勢の中でも、人と出会いたい、という思いから講座に参加し、その一般講座からサークルが出来たこと、保育付き以外の講座はサークル化しにくかった傾向がある中で4件発足したことは評価できる。またコロナ禍でもまつりを工夫して実施し、例年どおり記念誌を出しているが、パンデミック下でのまつりの記録としてたいへん価値があるといえる。 ◆近年は逆に保育付き講座からのサークルの立ち上げが難しくなっているときくが、社会状況の変化も含め課題として考えていくとよいのではないか。
		経年学習成果				・人と人がつながる機会の提供 ・団体・機関の関係形成を支援	**【学びの還元】** 公民館で長期的な活動を行う市民・団体を地域資源として活用するとともに、その学習成果の地域還元を支援したか	・市民・団体の協力による事業実施 ・公民館まつり等の地域交流事業の実施 ・公民館ロビーでの展示、発表 ・市民企画事業の実施（※2）	・市民、団体の協力による事業　32件 ・市民、団体との協働・連携による事業　16件 ・地域交流事業の実施　7件 ・ロビーにおける市民団体による学習の成果発表数　12件 ・市民企画事業の実施　14件 ・まちなか先生　4種類の講座（講師：地域団体1講座、講師：地域人材3講座）を小学校8校で合計9回実施	A	◇・柳沢、芝久保、ひばりが丘、保谷駅前公民館では、新型コロナウイルス感染対策を講じた上で、実行委員会方式により地域交流事業を実施した。 ・地域人材や市民団体を活用した事業を多数実施した。 ・市民企画事業においては、コロナ禍で実施を控える団体がある中、新規団体3団体の利用があった。 ・地域人材、地域団体等の協力を得て「まちなか先生」を実施した。 ◆コロナ禍に対応した形態で、可能な限り、全館で地域交流事業を実施する。	A	◇・コロナ禍にも関わらず、市民企画事業が実施できていることは評価できる。また新規団体も実施できており、さらなる公民館のサポートを期待したい。 ・コロナ禍にも関わらず地域人材、市民団体を活用した事業を多数実施したのは評価できる。 ◆「まちなか先生」は、子どもや教師にとって市民と触れ合い社会教育と出会うチャンスである。社会教育、公民館へのいざないとなるように、ここでずれない「まちなか先生」の基盤を作っておきたい。
		地域づくり					**【市民参加】** 市民本位の公民館運営の実現のために、館の運営及び事業の企画・運営への市民参加を促進したか	・公民館運営審議会の開催 ・事業実施のための準備会開催 ・実行委員会方式による事業の実施 ・利用者懇談会の開催	・公民館運営審議会の開催　10回 ・公民館運営審議会の傍聴　延べ13人 ・事業実施のための準備会　10件 ・実行委員方式による事業の実施　5件 ・柳沢、芝久保、谷戸、ひばりが丘、保谷駅前で利用者懇談会を各1回開催 ・対象者別利用者懇談会の開催 柳沢1回（陶芸）、田無1回（調理）、芝久保1回（陶芸）	A	◇・秋に予定していた利用者懇談会は、新型コロナウイルス感染拡大により中止した。 ・地域交流事業以外の7事業で準備会を開催。企画段階からの市民参加に努めた。 ◆コロナ禍において、開催方法等の制約はあるが、引き続き、館の運営や事業の企画・運営への市民参加に努める。	A	◇・7つの事業で、コロナ禍にも関わらず準備会を開催できているのは評価できる。また、公民館運営審議会を行う上で、毎回必ず2～3名の傍聴者があることから、社会教育活動に対する西東京市の市民の熱意を感じる。 ・コロナ禍においても春の利用懇談会を開催したことは評価できる。 ◆現在傍聴者に配布される資料は、すべて持ち帰り不可だが、より広く市民に公民館のあり方を考えてもらうためにも、渡せる資料の選定を行ってみてはどうか。また、直接市民の声をきける利用者懇談会のさらなる工夫、市民が参加したくなる工夫も必要だと考えられる。

					・地域の中で事業実施 ・市民、団体、機関との連携・協働		**【地域の中での事業実施】** 公民館の施設にとどまらず、まちの中で主催事業を実施したか	・他施設等を利用した主催事業の実施	・他施設等を利用した主催事業の実施　12件 郷土資料室1件、公園等7件、農地2件、 まち歩き2件 ・小学校8校で「まちなか先生」を実施。4種類の講座を合計9回実施。	A	◇・市内の農家や商店街等の協力も得ながら、まちの中で事業を実施した。 ・小学校で、地域人材や地域団体を講師に、社会教育事業として授業を行う「まちなか先生」を実施した。 ◆地域人材や地域団体、関係機関等の協力を得ながら地域の中で事業を実施することに取り組む。	A	◇事業報告書を見ると、着実に地域の中に出ていっている公民館の姿がみられる。引き続き地域課題や地域探訪などに取り組み、市民が地元への愛着が感じられるような努力を求めたい。 ◆他施設を利用した主催事業の実施が12件あるが、「公民館の外でやること」の意味をさらに深めて、有意義な事業実施をしてほしい。

			基本方針	実績指標	実績	公民館（1次）評価		公民館運営審議会（2次）評価	
						評価	評価及び課題　[◇・・評価　◆・・課題]	評価	評価及び課題　[◇・・評価　◆・・課題]
令和３～５年度　事業計画			開かれた公民館～あらゆる市民に向けて	・初めて公民館主催事業に参加した人の割合 ・青年や現役世代等の利用が少ない層を対象とした事業の実施 ・広報活動の充実、	＜基本方針１　該当事業　57件＞ 全事業の78.1% ・該当事業のうちアンケートを実施した事業　46件 うち初めて公民館主催事業に参加した人が50%をこえた事業　20件 ＜内訳＞青少年対象事業　3件 現役世代を対象とした事業　1件 オンライン開催の事業　4件 ・インクルーシブな社会をめざす講座（谷戸）からボッチャの自主サークルが発足 ・市ホームページ上に公開した事業の動画　3件	A	◇・令和２年度から、谷戸公民館を拠点館として、障がいの有無を問わず一緒に活動するという形態の、障がいのある人の社会教育活動に取り組んでいる。 ・公民館主催事業に参加したことがない人や公民館の利用が少ない層を対象として企画した20事業では、初めて公民館主催事業に参加した人が半数を超えた。 ・オンライン開催の事業を複数実施し、受講方法の幅を広げた。 ◆・令和３年度の実践をふまえて、30～40歳代の参加が見込まれる現役世代を対象とした事業に取り組む。 ・引き続き、オンライン開催の事業に取り組む。 ・趣味講座や教養講座については、市民の幅広い関心に応えられるような企画に努める。	A	◇青少年対象事業や現役世代対象事業では、オンラインを活用するなど、受講形態や情報発信の工夫がみえる。利用の少ないこれらの対象者に届くよう引き続きトライしていってほしい。 ◆特に「現役世代」というくくりについては、生き方の多様化している今日であるので、興味のありかを分析し、対象をどこにしぼるか、忙しくても参加したいと思わせる事業の内容をどう組み立ててアピールするかを確認していく必要がある。
			問いかける公民館～地域・社会と向き合う	・地域課題、社会的課題を取り上げた事業 ・継続的な学習機会の提供 ・学習を実践につなげていく支援	＜基本方針２　該当事業　28件＞ 全事業の38.4% ・該当事業のうち成人対象講座　25件 うち地域課題の取り上げ　20件（80%） 現代的課題の取り上げ　5件（20%） ・継続的な学習機会の提供　8件 ・学習を実践につなげていく支援　1件	A	◇・継続的に取り組んでいる講座については、市民が企画段階から主体的にかかわれるように、準備会を実施したり、市民団体と連携して事業を実施したりした。 ・講座参加者が地域活動へ一歩踏み出すことへの支援を目的とした事業を実施した。 ◆講座の企画段階からの市民参加を進める。	A	◇市民が企画段階から主体的に関われるよう工夫を重ねていることは評価できる。 ◆問いかける公民館として、地域のより身近な課題も取り上げていきたい。たとえば、大きな道路開通による住民の地域分断など、市民の抱える現在の問題点などもリサーチしていきたい。
			地域とともに～地域の中で、一緒に	・地域の中での事業実施 ・市民、団体、機関との連携・協働 ・地域課題の取り上げ	＜基本方針３　該当事業　34件＞ 全事業の46.6% ・地域の中での事業実施　12件（35.3%） ・市民、団体、機関との連携・協働　17件（50%） ・まちなか先生　4種類の講座を小学校8校で合計9回実施	A	◇・まち歩きなど、地域へと出かけていく事業に取り組んだ。 ・地域人材や地域団体の協力を得て、社会教育課、図書館との連携事業「まちなか先生」をスタートさせた。 ◆基本目標、基本方針をふまえて課題を明確にし、事業に取り組む。	A	◇地域の中で事業を実施することで、公民館をより身近に感じてもらえ、特に「まちなか先生」では、なかなか連携の難しかった学校との協働連携の端緒となった。 ◆「まち歩き」「まちなか先生」などの事業を行うことで、どのような成果があったか、時期がきたらまとめたい。またそれらを、公民館だよりで取り上げるなど、今後は市民にアピールしていきたい。また若い人の所へも出かけていきたい。
			地域の中につながりを～ともに生きる地域を	・市民の間の関係形成への支援 ・団体・機関の関係形成への支援	＜基本方針４　該当事業　17件＞ 全事業の23.3% ・青少年の仲間づくり　2件 ・多世代交流　2件 ・地域づくりにつながる関係形成　7件 ・団体・機関の関係形成への支援　6件	B	◇青少年の仲間づくりを課題とした新規事業を実施した。 ◆基本目標、基本方針をふまえて課題を明確にし、事業に取り組む。	A	◇なかなか公民館事業に参加しにくい青少年を対象につながりづくりを行ったことは評価できる。特に「けいおん」事業は半日で講座申し込みはいっぱいになったようだ。また切実な悩みのある人たちを対象とした講座も続けて実施できていて評価できる。 ◆・すぐ満員になる講座は次回に数を増やすなどし、参加したい意欲に応えられる公民館であってほしい。 ・これらのつながりが、今後に生きるように、引き続き支援していくことが必要である。

■※1. **学習支援保育とは…**乳幼児を育てている市民に対して、多様な学習機会を保障し、出会いと学びあいの機会を生み出すような公民館の公費保育制度です。親子の学びと成長を継続的に支え、学びの成果を地域へ発信・還元できるように支援します。

■※2. **市民企画事業とは…**市内の自主グループが企画した事業を一定の審査の上、公民館事業として実施するものです。自主グループが日頃の活動で培った知恵やノウハウを生かして市民にさまざまな学習機会を提供し、地域を豊かにすることが目的です。